



18日開幕した第22回「ツール・ド・のと400—能登半島一周サバイバル・サイクル2010」は出場者が美しい海岸線を眺めながら能登路を進み、初日のゴール輪島市に到着した。出場者の中には家族連れも多く、絆を深めるように互いに銀輪を連れ、励まし合いながらゴールを目指した。【1面に本記】

絆 駆ける能登路

競輪・小嶋選手 息子2人と参加

長男翼君(右)、次男健太君(左)と銀輪を連ねる小嶋選手

出場選手を支援するサポート隊として参加したバルセロナ五輪トラックレース日本代表の小嶋敬二選手も、長男翼君(14)と次男健太君(13)と今年もともに能登路を走り抜けた。競輪のトップ選手である小嶋選手は、全国のレースに出場するため金沢市の自宅を留守にすることが多い。16年ぶりの参加となる今回は「せつかくなので家族で思い出をつづら」と2人を大会に誘った。小嶋選手は先頭集団を力強くリードし、出場者にアドバイスを送った。翼君と健太君も負けじと先頭集団について行き、翼君は「お父さんの走る姿は、テレビで見ることが多い。間近でみるとやっぱりかっこいい」と話し、健太君も「最後は少しきつかったけどしっかりと走ることができた」と達成感をにじませた。父を追って最後まで走り抜いた2人に小嶋選手は「2人も本当によく走った。自分の仕事を少し伝えることができたかな」と笑顔を見せた。

先頭集団引張る「自分の仕事伝えられた」



ゴールで家族と笑顔を並べる勤田泰成君(中央) 輪島市マリタウン

最年少6歳、走り抜く

勤田君父、兄に励まされ

最年少の6歳で「日4・2」を走り切った。コースに出場した勤田泰成君(中央)は、父泰成と兄の励ましを受け、スタートから約9時間後にゴールした。勤田君は「真黒に焼けた顔で、静岡県磐田市」も父と兄と一緒にゴールした。父泰成君は「もともと初日に完走した。練習して、来年は家族と一緒に走り抜けた」と話した。



漆仕立ての自転車、ヘルメット

「走る芸術品」輪島PR

輪島市河井町の加波次吉漆器店の加波橋代表(40)は、漆仕立ての自転車とヘルメットをサポート隊を務め、「走る芸術品」として県内外からの出場者に輪島のお土産をプレゼントした。昨年夏に完成したヘルメットは黒と金で彩られ、「着用した人皆々

サポート隊の加波さん

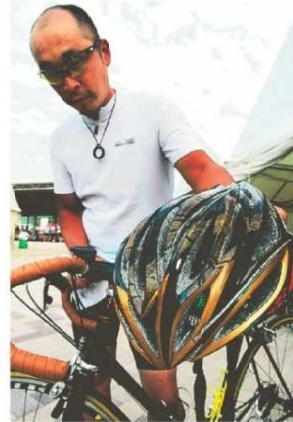
と走れるように」と、鳳凰の羽をイメージした加波さんがデザインした、黒一色の自転車も昨秋に完成し、ヘルメットとも今回のレースで初めて使用した。自転車愛好家で、

演舞で盛り上げ 近藤氏が初挑戦

「夢遊輪(むゆうりん)」。七尾市のメンバーとして初参戦した近藤和也衆議議員は、初日のゴールを迎え「能登の人情と自然の素晴らしさを再確認した。残り2日間も全力で走り切る」と感想を語った。◇…輪島市まなか商店街は、同市河井町の中央通りで今大会に合わせて初めて「輪島まなか」よさこい祭「を、大勢の市民や出場者が地元をよこいチーム「輪翔(わしやう)めだか」などの力強い演舞に見入った。

ピンクのTシャツ

◇…かたむねヒクリボンプロジェクト実行委員長の吉野裕司委員長(写真左)と飯山浩一委員(写真右)は、乳がんの早期発見と検診を訴えるピンク色のTシャツを着用して出場、出場者にピンクリボン運動を啓発した。同委員会が26日に金沢市で開催する「メッセ・ジウォーク2010」(本社共催)のPRも兼ねて出場した。ゴールまでTシャツは汗でぬれたが、2人は「いいアパレルが見えた」と満足そうな表情を見せた。



漆仕立ての自転車とヘルメットでサポート隊を務めた加波さん 輪島市マリタウン